

して、OSIPP 博士課程の院生でもある脇浜紀子よみうりテレビアナウンサーを進行役に、パネルディスカッションが行われた。

小泉政権の外交は「3点」 IT分野は「7点」

まずは各パネリストが現小泉政権の政策を10段階で評価し、その点数を会場の参加者に提示。外交分野担当の黒澤満 OSIPP 教授は、「主体的な外交に欠ける」として10点満点で「3点」。福祉分野担当の竹中ナミ・プロップ・ステーション理事長は、「福祉は政府と国民が半分ずつ責任を負うべき」とした上で「4.5点」。産業分野担当の中邨秀雄吉本興業代表取締役会長は、「地方分権の足がかりに経済特区創設」を主張し「4点」。経済分野担当の林敏彦スタンフォード日本センター理事長は「政策の方向性は正しいと思うが、国民への説明が不十分」として「6点」。また、今回コーディネータ役も務めた IT 分野担当の辻正次 OSIPP 教授は、諸外国に比べて「日本の IT 状況は悪くない」ため「7点」。こうした評価を元にして様々な論点が話し合われた。約200名が席を埋めた会場からは、イラク情勢、障害者や女性の問題などについて活発な質問も向けられた。

助手の佐渡氏、国問研へ 同坂田氏、立命館大へ

助手の佐渡紀子氏と坂田圭氏は3月31日付けで OSIPP を離任し、佐渡氏は財団法人日本国際問題研究所研究員(グローバルイシューズ担当)として、また坂田氏は、立命館大学経済学部助教授としてそれぞれ4月1日付けで着任した。

後任の助手に 北條氏、重政氏

後任の助手には、北條雅一氏、重政公一氏が4月1日付けで着任した。

北條氏は99年神戸大学経済学部卒業後、OSIPP 博士前期課程へ入学、高阪章教授などの指導を受けた。03年同後期課程を中退、助手に就いた。専門

10期生の52人が入学

OSIPP の入学式が4月7日、OSIPP 棟・講義シアターで行われ、10期生として52人が入学した。冒頭、野村美明研究科長より新入生にお祝いと激励の言葉がかけられた。

入学者の内訳は、博士前期(修士) 課程41人、博士後期課程11人。これにより、今年度 OSIPP に在籍する院生は前期課程94人、後期課程78人で、合計172人となる(休学者などを含む)。

OSIPP 学会主催・パネルディスカッション

北東アジアの行方を、法・政治・経済から学際的に

「変動する北東アジアの中の日本」と題するパネルディスカッションが4月9日、OSIPP 棟講義シアターで行われた。入学式に続くオリエンテーションの一環として、大阪大学国際公共政策学会(OSIPP 学会)が主催した。下村研一助教授、黒澤満教授、ロバート・エルドリッチ助教授、星野俊也助教授、橋本介三教授、高阪章教授がパネリストとして、また松繁寿和教授が司会として参加。緊迫する北朝鮮や中国の問題などについて、法律、政治、経済の専門家が学際的に議論を交わした。

下村助教授は、国際紛争の構図の中での複数国家の意思決定の難点を「囚人のジレンマ」と「チキン・レース」の「ナッシュ均衡」というゲーム理論の例を用いて説明。「個別の合理がもたらす全体の非合理」を紹介した。黒澤教授は、アメリカの対北朝鮮政策と対イラク政策とを対比させた場合に「なぜ、北朝鮮のみに外交的手段が用いられるのか」と問いかけ、それを軍事的要因と地政学的な見地から説明。エルドリッチ助教授は、歴史学からのアプローチにより、当初は地域的な脅威であった北朝鮮問題が90年代から次第に国際問題化したことを説明した上で、これを「アメリカ一国だけでは対処できない問題」とした。それに対して、星野助教授は、日米韓中などが、それぞれの思惑から異なる国益を抱えており、「その中で、北朝鮮の脅威をなくすという共通利益を堂実現していくか」と問いかけ、争点を整理した。

また、後半は「中国脅威論」を主なテーマとして討議が行われた。橋本教授は、繊維製品を例に取り上げ、「中国からの輸入製品の増大に対して危機だ危機だ、と騒ぐだけで何もしていない日本の『脅威論』」に疑問の声を投げかけた。また、高阪教授は、「中国脅威論」は、一昔前の「日本脅威論」を彷彿とさせるとした上で、「成長率が低く、産業転換のしにくい日本にとってマイクロレベルでは脅威かもしれないが、マクロレベルでは必ずしもそうでない」と分析。最後に星野助教授が、「2020年の日中関係の展望」を披露して、これらの議論を締めくくった。会場からは、「中国脅威論」に関連して「経済政策が政治の論理に振り回されてしまうことについて、政治学者はどのようにとらえているのか」といった質問が新入生からも活発に出された。

は開発経済学。特に途上国のマイクロ・データを用いた実証分析が研究の中心。

重政氏は慶應義塾大学法学部を卒業後、ジャパンタイムズ社記者を経て、オーストラリア国立大学大学院、クイーンズランド大学大学院で学び、99年 OSIPP 博士後期課程に入学。星野俊也助教授の指導を受け、02年同課程を修了した(博士=国際公共政策を取得)。専門は国際政治学、とりわけ国際政治理論とアジア太平洋地

域の安全保障。

また OSIPP 秘書室(OSO)でも異動があり、梅園敦子氏、富田千絵氏が退職、後任に村下明子氏が助手として、柏木友紀子氏が事務補佐員として着任した。コンピューター管理を行うネットワークセンターでは瀬野仁美氏が退職、新たに田坂昌絵氏が着任。OSIPP の事務を扱う文科系教務課教務第四掛では事務補佐員の福山春江氏が退職、同川村翠氏が着任した。